

馬場ひでゆきの活動日誌

No.18

3月22日で二月議会が終了、全議案が可決承認されました。ただし、私は、令和6年度予算案などには反対し、議場で反対討論をしました(裏面参照)。何とか1年間の仕事をやりきることができました。23日からは各地域を回り、活動報告する予定です。これからもよろしくお願いいたします。

ひららぎ哲也市議事務所開き

3月10日夕方、日本共産党ひららぎ市議の事務所開きに参加し、昨年(今年)の今頃に県議選でひららぎ市議から応援していただいていたことを伝え、共に頑張ろうとエールを送りました。



片桐奈保美さん講演会

3月10日午後は、市民プラザで「市民アクション・じょうえつ」(前山忠代表)の「語り合いのつどい」があり、片桐奈保美さんが講演しました。片桐さんは、前回の新潟県知事選立候補者であり、新潟日報などで原発について意見広告を出してきた「新潟の新しい未来を考える会」代表者でもあります。

片桐さんは、「能登半島地震で原発に対する世論が変わってきている」「人類を守るには原発をやめなきゃダメ。原発に明確に反対の人だけでなく、中間層の人も含めた運動が必要だ」「能登半島地震で自宅待機、屋内退避できないことがはっきりした。アメリカのジョアハム原発のように、避難計画がまともでないところは廃炉にするのが当然だ」などと話しました。片桐さんは、前回の県知事選で原発再稼働反対を明確に訴え

ました。知事選には敗れましたが、今も反対運動をつづけておられます。ずうっとぶれない姿勢に感動しました。

高田のまちのおしゃべり会開催

3月16日は、当事務所で「高田のまちのおしゃべり会」と題して県政報告会を開催しました。当日は40名の方が参加してくださいました。この事務所がこんなに人で溢れたのは初めてです。まずは私の議会での一般質問の様子を



議会のネット中継録画でみていただき、議場の様子や私の質問の趣旨、知事の回答などを説明し、次にこの1年間の活動を報告しました。また、参加者

とのおしゃべり会ではいろいろな質問やエールをいただき予定時間を超えて終了となりました。

上越地域の医療を守る会学習会

3月17日午後は、新潟労災病院の機能存続を目指す市民団体「上越地域の医療を守る会」が主催して、本田宏さん(元外科医、地域医療専門)と、元長岡赤十字病院看護師長で元県議の竹島良子さん「地域医療」の現状について講演しました。

二月議会終わる

会場には、百名以上の住民の皆様が参加されました。住民の休憩時間中も、講師の方に質問する熱心な方もおられました。全体として地域の方々が地域医療の逼迫した状況をどうにかして打開したいという気持ち伝わってくる熱気のある集会になりました。

3月21日は委員会採決、22日は本会議で令和6年度当初予算案などを採決しました。私は最終日、議場に立ち、令和5年度補正予算案、令和6年度当初予算案について反対討論しました。

何とか1年目の議員活動を終えました。23日からは各地域に出向いてこの一年のご報告をします。3月23日は三和区、24日は牧区、4月2日は桑取地区の予定です。お話を聞きたいと言う方は、当事務所にご連絡ください。数名でも集まっていたら嬉しいです。行かせていただきます。

22日の朝の雪。なごり雪にしては降りすぎの雪。



二月議会では予算案が審議されました。令和5年度補正予算案については、トキエアへの3億円支出について反対、令和6年度予算案については、原発事故の避難方法の施策がないことなどから反対し、議場で反対討論しました。内容は左のとおり。

●令和5年度補正予算案のトキエアへの3億円の補助金支出はおかしい。

トキエアは2022年の秋の就航予定からたびたび延期を繰り返しました。その間収入がないことから、収支が悪化していることは明白です。そこで、担当部局に対して議決権行使にあたって財務状況に関する資料をいただきたいと要望しましたが、断られました。しかし、資料がないと、赤字の企業に補助金を出して効果があるのかどうか判断が付きません。

総務文教委員会でも質問しましたが、県の回答は、丘珠線が飛んだから収益が見込めると言う話です。しかし、本当にそうなのかどうか資料がないと調べることがありません。

また、県は補助金については企業名非公表、経営状況も非公表が原則だとも回答しました。しかし、県民が関心をもっているからこそ、企業名を公表したのではないですか。であれば、最低限度の資料を見せてもいいのではないのでしょうか。

以上で反対します。この3億円、私学助成の充実などに振替えていただきたい。

●令和6年度予算案―避難方法の取組への施策がない

次に令和6年度予算案について反対意見を述べます。まず原発事故の避難方法への取り組みについてです。

昨年、検証総括委員会の委員が再任されず、委員会も開催されないまま、検証総括は、県がまとめました。その後、1月に能登半島地震が発生し、複合災害の場合に屋内退避が現実的でないことが明らかになりました。

県は住民の不安をすくいあげ、避難委員会を立ち上げて課題を整理して国に情報提供をすることが必要です。知事は、国が専門性をもっているとのことです。県は国よりも住民に近い存在です。今こそ住民に寄り添うことが必要です。

馬場の反対討論

予算では、技術委員会が開催こそ予定されているもの、避難委員会の上り上げの予定などがありませぬ。

●地域医療の再編について
県は、県央、上越、佐渡の3つの医療圏を重点支援区域と位置づけ、病院統廃合や病床削減の規模に応じて給付される国の交付金を受けてまで、医療再編を進めています。

上越でも、労災病院の閉院が地元の医療関係者の再編会議で了承され、昨日も同会議が行われ、一つの中核病院に急性期、救急機能を集約する、その他の病院は包括的ケアシステムの受け皿になるという方向性が示されました。しかし、労災病院の閉院をとつても、地域の住民が了承しているとは思えません。住民は根強い不安を抱えています。

交通弱者は行き場を失う。既存の診療所、病院はさらなる多忙化、地域医療が疲弊する、ひいては周辺地域の過疎化が一層深刻化する。県は、地域の住民との実質的な対話を重ねて適切な医療体制を考えていくべきであり、再編を急ぐべきではありません。

●教育・子育て支援について
私立高校の学費軽減につき県が補助に踏み出したことについては評価します。

他方で、子育て世帯から切実な要求となっている学校給食費無償化や、子どもの医療費の高校卒業までの助成拡充などには踏み出そうとしていません。また、「こむすび住宅推進事業」については、補助金が直接には再販業者に支払われるものであり、子育て世帯へのストレートな支援になっていません。以上から、子育て支援が全体として不十分と考えます。

県政報告会開催のお知らせ



※桑取地区県政報告会
開催日時 4月2日(火)
午後2時～4時
場 所 土口公民館

※市民連合・上越 県政報告会
開催日時 4月4日(木)
午後6時半～
場 所 上越文化会館中ホール

発行責任者：馬場ひでゆき事務所
住所 新潟県上越市本町3丁目3番3号
ダイヤパレス高田式番館5階
電話 025-546-7710
ファックス 025-546-7666
メール kengi-bahahideyuki@windoon.ne.jp